

学校評価について（中間評価）

初秋の候、保護者の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。
 さて、7月にお願しました保護者アンケートにつきましては、887名（児童数分）という多数の保護者の皆様からのご回答をいただきました。学校に対する皆様の関心や期待の高さを感じ、大変ありがたく思っております。同時期に児童、教員にも同様のアンケートを行い、本校の自己評価として下表のようにまとめました。結果を十分に吟味し、これからの取り組みに生かしたいと考えております。今後とも学校教育に対するご理解とご協力をお願いしたいと思います。

児童アンケート	1年		2年		低学年	総計
	161人		147人		308人	
	3年	4年	5年	6年	中高学年	980人
	147人	159人	202人	164人	672人	

保護者アンケート		1年	2年	3年	4年	5年	6年	総計
	回答数	159人	141人	126人	143人	177人	141人	887人
	割合	95.8%	94.0%	84.6%	89.9%	86.3%	84.4%	90.4%

	低学年(1,2年)	中高学年(3~6年)
		保護者
A	そう思う	あてはまる
B1	B まあまあ	ややあてはまる
B2		あまりあてはまらない
C	そう思わない	まったくあてはまらない

たんぼぼ学級の保護者アンケートは、交流学級で集計しています。

領域	学 校 教 育 全 般						学 力 の 定 着 と 向 上													
	低学年児童		中高学年児童		保護者		低学年児童		中高学年児童		低学年児童		中高学年児童		保護者		教員		教員	
短期経営目標	学校は、楽しい。		学校は、楽しい。		子どもは学校へ行くのを楽しみにしている。		じゅぎょうで、じぶんのかんがえをかいたり、はなしたりすることができた。		授業で、自分の考えを書いたり話したりすることができた。		「うしたドリル」や「いきいきタイム」のべんきょうをがんばり、けいさんする力がついた。		「牛田ドリル」や「いきいきタイム」などの活動ががんばり、計算する力がついた。		学校は、基礎学力を定着させる努力をしている。		授業では、言語活動や指導の工夫により、児童が自分の考えを持ち、表現することができるようになっている。		「牛田ドリル」や「いきいきタイム」の活動や授業により、基礎学力の定着をめざすことができています。	
A	232人	75.3%	433人	64.4%	604人	68.1%	211人	68.5%	289人	43.0%	232人	75.3%	368人	54.8%	574人	64.7%	3人	7.9%	10人	29.4%
B	70人	22.7%	171人	25.4%	231人	26.0%	88人	28.6%	252人	37.5%	68人	22.1%	208人	31.0%	284人	32.0%	32人	84.2%	22人	64.7%
			56人	8.3%	46人	5.2%			123人	18.3%			78人	11.6%	29人	3.3%	3人	7.9%	2人	5.9%
C	6人	1.9%	12人	1.8%	6人	0.7%	9人	2.9%	8人	1.2%	8人	2.6%	18人	2.7%	0人	0.0%	0人	0.0%	0人	0.0%
評価および今後の取り組み	昨年度に比べ保護者の評価はあまり変化がないが、児童の方を見ると、昨年度に比べ肯定的な評価をする児童数に若干の減少が見られる。肯定的な評価の理由として低学年は「授業・勉強に関わること」中高学年では「友達に関わること」をあげている。また、否定的な評価の理由としても同様な結果がでている。「わかる・できる」授業づくりをめざすとともに、児童相互の好ましい人間関係づくりに取り組んでいきたい。						自分の考えを表現することについて97.1%の低学年児童は肯定的に評価をしている。また、同じ項目の中高学年児童の肯定的評価は80.5%となっているが、その中でも自信を持って表現できると感じているA評価の児童は43%にとどまっている。言語活動に視点をあてた指導の取り組みが始まったばかりで、成果がまだ十分でないこともあり、今後も指導の工夫に力を入れて取り組み、児童に自信をつけさせる必要がある。計算する力については日々取り組んでいるが、時間の取り方などを各学年で工夫していかなければならない。取り組みを継続して、B2やCを選んだ児童の評価が上がるようにしていきたい。保護者から「基礎学力の定着」について高く評価をいただいている。さらに今後、言語活動に視点をあてた授業づくりと基礎学力の定着に取り組んでいきたい。													

領域	豊かな人間性の育成															
短期経営目標	明るいあいさつ				きれいな学校											
	低学年児童		中高学年児童		保護者		教員		2年生児童		中高学年児童		教員			
	あいさつがよくできるようがんばった。		あいさつがよくできるよう努力した。		子どもたちは、よくあいさつをしている。		児童に気持ちのいいあいさつの働きかけを実施した。		そうじのしかたどおりに、そうじとあとかたづけができた。		そうじの仕方どおりに、そうじと後片付けができた。		掃除指導と掃除後の確認を行った。			
A	207人	67.2%	409人	61.4%	282人	31.8%	22人	56.4%	117人	79.6%	380人	56.5%	21人	53.8%		
B	B1	88人	28.6%	178人	26.7%	428人	48.3%	16人	41.0%	29人	19.7%	240人	35.7%	18人	46.2%	
	B2			62人	9.3%	166人	18.7%	1人	2.6%			49人	7.3%	0人	0.0%	
C	13人	4.2%	17人	2.6%	11人	1.2%	0人	0.0%	1人	0.7%	3人	0.4%	0人	0.0%		
評価および今後の取り組み	<p>児童・教員ともに評価が高く、あいさつについて、良好な関係ができています。校内では今後も日常的に教職員が、学級・学年を超えて積極的にあいさつを行っていききたい。一方、保護者の「A」評価は3割程度にとどまっている。これまでもさまざまな場面で家庭や地域でのあいさつや声かけをお願いしてきたが、これからも家庭や地域でのあいさつを促していきたい。そのためにも、「ふれあいの日」の取り組みをしっかりと位置づけ、校内外での取り組みの要にしたい。</p>								<p>児童・教員いずれの評価も高く、上手に掃除を行っていると言える。今後も毎日の掃除指導と掃除後の反省を確実に行っていききたい。(1年生は、清掃活動にまだ取り組んでいないので、この項目には集計されていません。)</p>							

	低学年(1.2年)	中高学年(3~6年) 保護者
A	そう思う	あてはまる
B1	B まあまあ	ややあてはまる
B2		あまりあてはまらない
C	そう思わない	まったくあてはまらない

領域	健康・体力づくり				まちぐるみ教育の推進								
短期経営目標	運動の習慣化				かかわり合い								
	低学年児童		中高学年児童		保護者		教員		保護者		教員		
	「きらきらタイム」で自分ののがてなうんどうをとくのがんばっている。		「きらきらタイム」で自分の苦手な運動を特にがんばっている。		子どもたちは、自分から進んで運動したり外で遊んだりしている。		「きらきらタイム」で強化種目、に関連した運動を取り入れた。(学年)		学校は、学校便り、学年便り等のプリントや、Webページ、安心ネットなどで学校の情報の発信に努めている。		学年便りを毎月発行し、学校のWebページの学年のページを予定通り(2回)更新した。		
A	254人	82.5%	381人	56.9%	463人	52.3%	3学年	50.0%	602人	67.9%	7学年	87.5%	
B	B1	50人	16.2%	188人	28.1%	327人	36.9%	3学年	50.0%	263人	29.7%	0学年	0.0%
	B2			82人	12.2%	88人	9.9%	0学年	0.0%	19人	2.1%	1学年	12.5%
C	4人	1.3%	19人	2.8%	8人	0.9%	0学年	0.0%	3人	0.3%	0学年	0.0%	
評価および今後の取り組み	<p>児童が、不得意な運動においても課題意識をもっているかという問いでは、低学年児童で、98.7%の肯定的な回答を得ることができた。中高学年においても、85.0%と苦手種目克服への意欲があることがわかる。このような児童の意識は、それを見守る保護者の回答(89.2%)にもあらわれている。今後は、「きらきらタイム」で取り組んだ強化種目の記録の変化を児童にきちんと知らせるとともに、そのがんばりを評価することで、喜びを感じさせ、さらなる児童の意欲向上につなげたい。</p>								<p>約98%の保護者から本校の取り組みについて肯定的な評価を得ている。これからも定期的な情報発信のみならず、時宜を得た、必要で有用な情報を、Webなども活用しながら発信していきたい。</p>				

無回答、または、回答できない項目もあるため、合計人数は項目によって異なります。

人数の割合は、小数第2位以下を四捨五入して表しました。そのため、合計が100%にならない場合があります。

学年の合計が7以上になっている項目があるのは、特別支援学級や通級指導教室を1学年としているためです。